

流産・死産 悲しみと向き合う

夫婦に助言のパンフ

岡山県不妊専門相談センター



流産や死産を経験した人や家族のためのパンフレット

不妊に悩む夫婦の相談に応じる岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」は、流産や死産を経験した人と家族をサポートするためのパンフレットを作った。

タイトルは「流死産で大切な子どもを亡くしたあなたとご家族へ」。前半は、悲しみと向き合うためのグリーンフェアの視点で助言している。流産・死産後に自分を責めたり外出できなくなったりするなどの心身に現れる反応を「正常な反応」と肯定。我慢せず泣くことや亡くなった赤ちゃんとの思い出をかたちに残すことなど、立ち直りに向けてのプロセスを示している。

後半は流産や死産を繰り返す不育症について解説。母親のホルモンや子宮の異常が原因の場合もあり、薬や手術で治療可能なものもあることを記している。

同センター長で、岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授は「流産・死産のリスクが高まる高齢妊娠が増えているが、国内のケア態勢は不十分。パンフレットが夫婦の立ち直りのきっかけになれば」と話す。

A4判の見開き6ページ。同県内の産婦人科医療機関で配る他、不妊・不育とこころの相談室のホームページからダウンロードもできる。